

VI 令和2年度 全国大会報告

第95回令和2年度全日本盲学校教育研究大会・松山大会

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となったため、予定されていた事項のみ報告する。

1 大会概要

- (1) 大会主題 「共生社会における視覚障害教育～今後の盲学校の役割～」
- (2) 期 日 令和2年7月30日(木)～31日(金)
- (3) 場 所 愛媛県民文化会館

2 内容

- (1) 第1分科会(学習指導1)
 - ・ 視覚障害の特性に応じた学習の基礎・基本を身につけるための指導
 - ・ コミュニケーション能力や表現力、発信力を育てる指導
- (2) 第2分科会(学習指導2)
 - ・ 視覚障害の特性に応じた学習の基礎・基本を身につけるための指導
 - ・ 意欲を引き出す指導や気づきに繋がる指導、教材・教具の工夫
- (3) 第3分科会(生活)
 - ・ 自立と社会参加を目指した基礎的な生活力をつける指導
 - ・ 多様化した幼児児童生徒の社会参加に向けた支援のあり方
- (4) 第4分科会(特別支援)
 - ・ 視覚特別支援学校(盲学校)における専門性の維持・向上
 - ・ 視覚障害教育におけるセンター的役割とネットワーク及び課題
- (5) 第5分科会(理療)
 - ・ 認定規則改正に伴う追加カリキュラムの指導上の課題と工夫
 - ・ 多様な生徒の自立的な学習を進めるための指導法

～高齢生徒や学習意欲の低い生徒など学習に困難を抱える生徒への指導～

- ・ 理療教育における主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の実践

3 報告

本大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5月に中止が決定された。この研究大会のため、本校の理療科教諭を含め各分科会発表者は数年をかけ準備を進めていたが、中止により発表場面无くなり大変残念であった。全体会では国立民族学博物館 准教授 広瀬浩二郎氏による「オリパラの先へ～『野生の勘』が視覚障害教育の未来をひらく～」がオリパライヤーに併せ講演予定であった。

しかし、それぞれの研究で深めた内容を全体に共有し視覚障がい教育の充実に役立てる目的で、令和2年12月より主管校である愛媛県立盲学校のホームページにおいて、全ての発表者の発表原稿を閲覧できるようになった。明星視覚支援学校においても各データをダウンロードし、校内サーバーで情報共有を行っている。例年、数名の職員が出会い、その内容を出張報告会で職員全体に情報提供をしていた。本年度、このように全職員が同じ発表原稿を共有することができたのは、コロナ禍での新しい情報共有の在り方ではないかと感じる。発表データが自由に閲覧できることで、本校職員も研鑽を積むことに繋がっている。

第54回全日本聾教育研究大会（埼玉大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「自らまなびを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」
- (2) 期 日 令和2年10月8日（木）から9日（金）まで
- (3) 場 所 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園

2 内 容

【1日目】 [10月8日（木）]

- (1) 授業研究分科会（専攻科）
- (2) 研究協議分科会【第1部】
 - ① 早期教育Ⅰ（乳幼児）
 - ② 教科学習と学ぶ力（小学部）
 - ③ 重複障がい教育
 - ④ 教科教育（中・高文系）
 - ⑤ 自立活動Ⅰ（障がい認識・コミュニケーション）
 - ⑥ 関係機関との連携、センター的機能

【2日目】 [10月9日（金）]

- (1) 授業研究分科会（寄宿舎）
- (2) 研究協議分科会
 - ① 早期教育Ⅱ
 - ② 教科指導（実技系）
 - ③ 寄宿舎教育
 - ④ 発達障がいを併せ有する聴覚障がい児に対する支援
 - ⑤ 教科指導（中・高理系）
 - ⑥ 言語力向上
 - ⑦ 自立活動Ⅱ（聴覚活用、発音・発語指導、補聴機器）
 - ⑧ キャリア教育・卒業後の進路

- (3) 記念講演
演題「ろう教育で大ボラを吹く」 講師 濱田 豊彦 氏（東京学芸大学 教授）

3 報 告

今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策のためにWeb会議システムの利用、会員参集型から各校における参加型、記念講演や授業公開はライブ配信やオンデマンド配信での提供等、これまでにない形態での研究大会となった。

分科会「言語力向上」の実践報告は、それぞれの学校の「言語力」の捉え方や指導の方針が反映されており、興味深かった。助言者の金沢大学の武居渡教授からは、『音声言語が使えないから手話を使う』という考え方は間違いである。人工内耳の子供が増えているが、聴覚支援学校において個に応じた指導に徹するあまり、手話を一番必要としている子供が孤立するという現象が起きている。」との指摘があり、考えさせられる内容であった。

記念講演では、言語発達でよく言われる「9歳の峠」について、「この時期は『言葉から新しい知識を得る』という学びになり、時間軸での思考もできるようになる。そして未来の自分を想像することにつながる。」とのことであった。また、それは「もう一人の自分」という視点や「自分以外の人」の視点、さらに「他者の気持ちをわかる」ことにもつながるので、小学3、4年生は特に大切な時期であるとのことだった。他にも多くの深い学びを得ることができ、充実した大会となった。

第59回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「長崎大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 「共生社会の中で、志をもち自分らしく生きる子どもたち」
～学びの連続性を推進する新たな教育課程の創造～
- (2) 期 日 令和2年10月29日(木)～10月30日(金)
- (3) 場所(会場) 第1日目(全体会)長崎ブリックホール
第2日目(学校見学及び分科会)長崎市内等の小学校・中学校・高等学校
特別支援学校 長崎市民会館

2 内 容

- (1) 第1日目(全大会・理事評議員研究協議会)
- ① 開会式・表彰式 ② 研究報告 ③ 行政説明・基調報告
④ 記念講演 演題 『学びの連続性を推進する新たな教育課程の創造』
講師 長崎県教育庁 特別支援教育課 課長 分藤 賢之 氏
⑤ 閉会式 ⑥ 理事・評議員研究協議会
- (2) 第2日目(学校見学等・分科会)
- ① 分科会(全15分科会)

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	早期からの特別支援教育	早期からの支援と幼保小の連携	和歌山県・長崎県
2	地域との連携	共生社会の実現を目指した支援体制	名古屋市・長崎県
3	交流及び共同学習	共生社会の充実につながる交流及び共同学習	島根県・長崎県
4	障害者スポーツ・文化芸術活動	生涯にわたる豊かな生活の実現につながる取組	神奈川県・長崎県
5	通級による指導	一人一人に応じた効果的な指導	福岡県・長崎県
6	通常の学級における合理的配慮と授業改善	全ての子どもに分かりやすい授業づくり	佐賀県・長崎県
7	高等学校における特別支援教育	特別支援教育の推進	長野県・長崎県
8	教科別の指導① (小学校・小学部段階)	主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善	神戸市・長崎県
9	教科別指導② (中学校・中高等部段階)	主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善	宮崎県・長崎県
10	キャリア教育	キャリア発達を促すキャリア教育	徳島県・長崎県
11	就労支援	関係機関と連携した就労支援	石川県・長崎県
12	自立活動	指導すべき課題を明確にした自立活動の指導	宮城県・長崎県
13	各教科等を合わせた指導①(作業学習)	一人一人が主体的で自立する力を育む作業学習	秋田県・長崎県
14	教科等を合わせた指導②(日常生活の指導・生活単元学習)	ライフキャリアの視点を踏まえた日常生活の指導・生活単元学習	大分県・長崎県
15	健康・安全教育	命を大切にすることを育む健康・安全教育	北海道・長崎県

3 報 告

今回の研究大会は、第54回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「長崎大会」と合同開催する予定であったが、新型コロナ感染拡大予防のため中止となった。

来年度は、和歌山県で開催予定である。

第66回全国肢体不自由教育研究協議会 埼玉大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「肢体不自由教育の充実をととした共生社会形成の推進」
～主体的・対話的で深い学びのある教育実践をとおして～
- (2) 期 日 令和2年12月11日(金)～12月25日(金)23:59まで
- (3) 開催形式 <Webでの開催>
第66回全国肢体不自由教育研究協議会埼玉大会 ホームページ

2 内 容

- (1) 全体会 Web上にて動画または電子文書による配信実施。
- ・会長挨拶 ・実行委員長挨拶 ・来賓祝辞 ・青森大会成果還元レポート
 - ・文部科学省講話 演題：「肢体不自由教育への期待」
講師：文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野和彦氏
 - ・記念講演 演題：「今後の肢体不自由教育に期待すること」
講師：東京大学先端科学技術研究センター 中邑賢龍氏
- (2) 第1分科会～第10分科会

分科会	内容	ポスター(本)
第1分科会	授業改善	10
第2分科会	学習指導Ⅰ(準ずる教育課程)	13
第3分科会	学習指導Ⅱ(知的代替の教育課程)	18
第4分科会	学習指導Ⅲ(自立活動を主とする教育課程)	12
第5分科会	自立活動	18
第6分科会	健康教育	7
第7分科会	情報教育・支援機器の活用	20
第8分科会	生活指導・寄宿舎教育	7
第9分科会	キャリア教育及び進路指導	7
第10分科会	地域との連携	12
第11分科会	新型コロナウイルスへの対応(ポスターのみ)	13

- ・提案者からの事例報告 各分科会2名 音声付きプレゼン・動画等による報告
 - ・助言者からの指導助言 音声付きプレゼン・動画等による指導助言
- (3) ポスター発表 (PDFポスター+PDF抄録)

3 報 告

本大会は、事前収録された動画を、大会ホームページ上で開催期間のいつアクセスしても見ることができる方法で実施された。菅野氏の講話では、GIGAスクール構想の加速に伴う様々な変化を受け止めて教育を展開していく必要性、学習評価について、各教科と自立活動との関連や考え方について述べられた。記念講演では、中邑氏が重い障害のある子どもの言語理解やICT活用について述べられた。Web開催になったため、期間中すべての分科会が閲覧できたり、137本のポスターが発表されたりするなど充実した大会となった。

第61回 全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 愛知大会

1 大会概要

- (1) 主 題 児童生徒のニーズに応じた生きる力を育む病弱教育のあり方
～多様化する病弱教育における専門性の向上を目指して～
- (2) 期 日 令和2年8月6日(木)～7日(金)
- (3) 会 場 ウィンク あいち

2 内 容

(1) 分科会 I (指導助言者)

① 教科等の指導

国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 大崎博史

② 自立活動の指導

和歌山大学教育学部 特別支援教育教授 武田鉄郎

③ 進路指導・キャリア教育

東洋大学文学部 教育学科教授 谷口明子

④ センターの役割

京都女子大学発達教育学部 教育学科教授 滝川国芳

⑤ PTA

全国病弱虚弱教育学校PTA連合会 事務局長 南風野久子

(2) 分科会 II

⑥ ICT

日本福祉大学健康科学部 福祉工学科教授 渡辺崇史

⑦ 心身症・精神疾患のある子どもの指導

国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 土屋忠之

⑧ ベッドサイド教育・病院との連携

豊橋市民病院小児内科 第二部長 伊藤 剛

⑨ 高校生への支援及び学習指導

関西学院大学 教育学科教授 丹羽 登

(3) 記念講演

演 題：「愛着障害の理解と支援」

講 師：和歌山大学 教育学部教授 米澤好史

(4) 特別講演

演 題：「病気の子どもの学びの充実 ～これからの病弱教育のあり方～」

講 師：文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官 深草瑞世

(5) 特別企画

映画上映 「がんと生きる 言葉の処方箋」

3 報 告

上記計画で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、本年度の開催は中止になった。